

電通育英会主催「リーダー育英塾」の紹介 —2022年度第4期募集に向けて—

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 学長・教授

<http://smizok.net/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、2000年講師、2003年准教授、2014年教授を経て、2019年4月より現在に至る。京都大学博士（教育学）。

*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画は溝上が個人的に作成・提供するものです

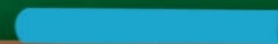
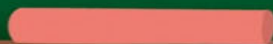


公益財団法人電通育英会主催「第4期リーダー育英塾」募集のご案内

詳細&申込は、以下のURLをご覧ください

https://www.dentsu-ikueikai.or.jp/transmission/about_ikueizyuku/

- 8/16（火）～18（木）
- 会場：クロス・ウェーブ船橋（千葉県）（合宿形式）
- 目的：高等学校・大学で推進していく「次世代リーダー」の育成
- 参加資格：主に高校、大学教職員（短大、高専等も含む）、定員30名
- 参加費・宿泊費（無料） ※ただし現地までの交通費は各自で負担



大学生研究フォーラムからリーダー育英塾へ

- 2008年（第1回） 大学生の教育とキャリア形成の在り方を探る
- 2009年（第2回） 大学生の何が成長しているのか、その中身を考
える
- 2010年（第3回） 大学での勉強を、学生の成長につなげる
- 2011年（第4回） 現代大学生の学びとキャリアをデータと実践を
架橋して理解する
- 2012年（第5回） グローバルキャリアの時代に大学教育は何がで
きるか
- 2013年（第6回） 学生のうちに経験させたいことー大学生の今、
変わる企業
- 2014年（第7回） 活力ある日本の若者教育を目指して
- 2015年（第8回） 大学教育に必要なのは「プロジェクト」か「プ
ロジェクト学習」か
- 2016年（第9回） 経験で終わるな、メタに上がれ！ーわたしのメ
タラーニング宣言ー
- 2017年（第10回） 10年目を迎えた大学生研究フォーラム --
10yearsリフレクションー
「学校から仕事・社会へのトランジション」へとシフト

「リーダー育英塾」の開催 Since 2018~



「あなた」と「わたし」の
スキマを埋める



『IKUEI NEWS』
Vol.88
(2019年10月)



教育改革を進める
次世代リーダー育成の場

リーダー 育英塾 2019

監修



学校法人創価学園 理事長
トランジションセンター 専務
溝上 健一



立教大学 経営学部 教授
中澤 洋

ファシリテーター



大船開立大学 施設管理
畑野 快



立教大学 担任准教授
館野 泰一



立教大学 准教授
田中 健



創価学園トランジションセンター 施設管理
武田 佳子



創価学園 情報科教師
登本 洋子



東京大学 教職大学院 講師
吉安 大祐

リーダー育英塾とは？

高校・大学の教職員を対象として、2泊3日で開催される少人数制の研修プログラム。参加者が個々の教育現場で抱える課題と各自で考案した解決方法を持ち寄り、グループワークや議論からのアドバイスを通じて内容をブラッシュアップし、最終日にポスター発表を行います。リーダー育英塾が大切にすることは、発表した内容を各現場に持ち帰って「実行すること」。そして、その行動を支え合い、高い志を共有する「仲間を作ること」です。未来の教育現場を支える本気の取り組みが始まっています。

1st
DAY
8.17 Sat

Introduction
&
Interaction

Report From リーダー育英塾 2019

8月17日(土)～19日(月)に行われた第2期「リーダー育英塾」。120名を超える応募の中から事前課題を突破した33名が、クロス・ウェーブ船橋(千葉県)に集結しました。

オリエンテーション

延達育英会(中本研)理事長の挨拶で幕を開けた第2期リーダー育英塾。総会では館野先生でした。



トランジション・レクチャー

館野先生による「トランジション(高大社連携)」のレクチャーが行われました。社会が急遽に変わる中で人材に求められる能力が変わっていることを示唆した館野先生は、今後の教育現場の課題に対して、自身の研究テーマを交えて、専門的な観点からトランジションの大切さを説きました。



分科会(グループワーク)導入

グループワークを行うにあたり、「なぜ自分たちはここに集まったのか(Why are you here?)」を意識して話し合いをしてほしいと中澤先生からお話がありました。ここでブラッシュアップした創造的なアイデアを実行するためにも、ここで「仲間」を見つけたいと参加者には伝えました。



分科会

その後、全6グループに分かれ、グループワークを行いました。参加者が個々に持ち寄った課題と解決方法についてグループで話し合い、ファシリテーターのアドバイスも交えつつ、取り下げていきました。



懇親会

19日の最後は、懇親会でお楽しみとなりました。参加者たちは一旦課題を断れ、リラックスした表情で交流を楽しんでいました。



